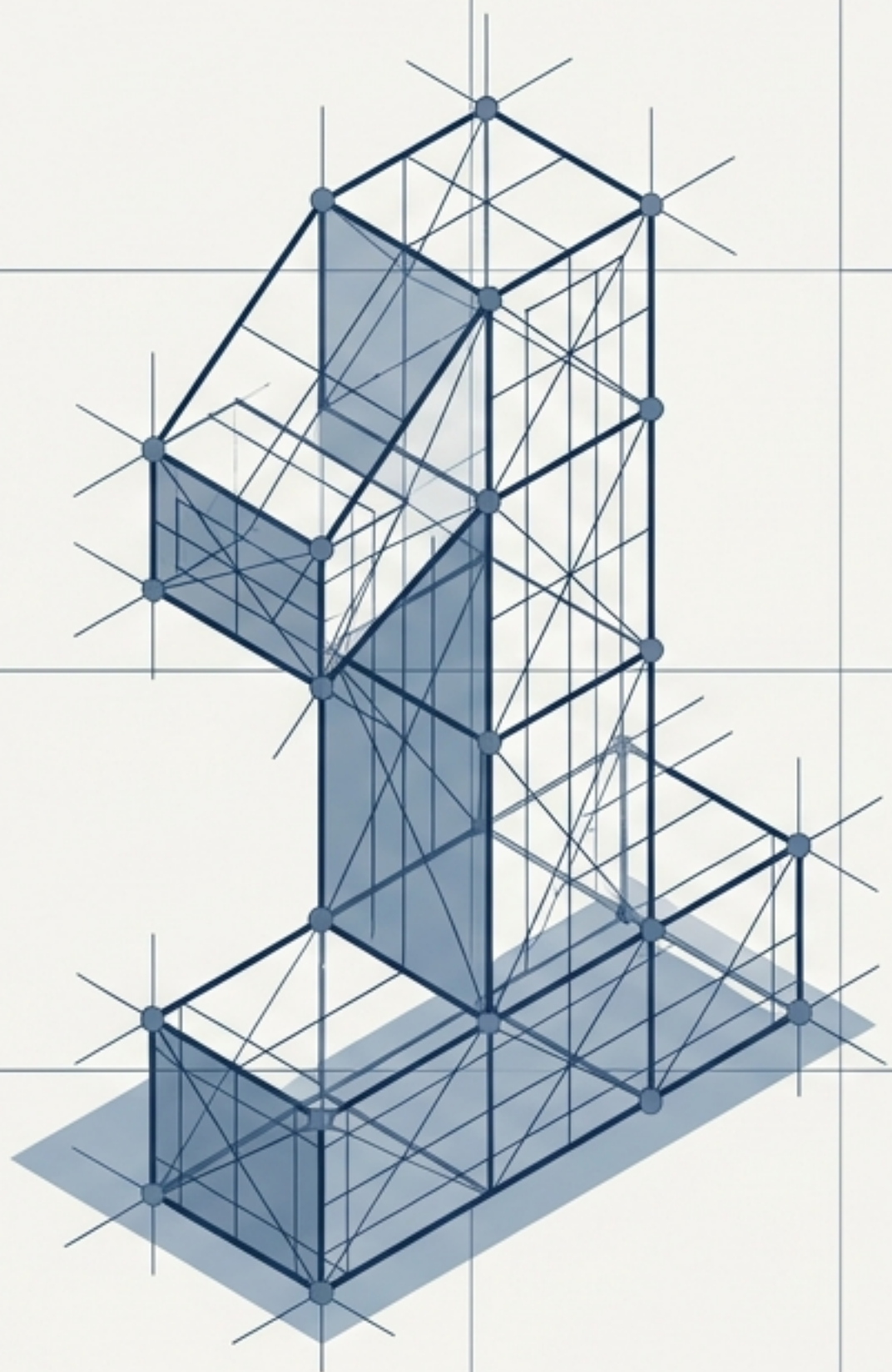




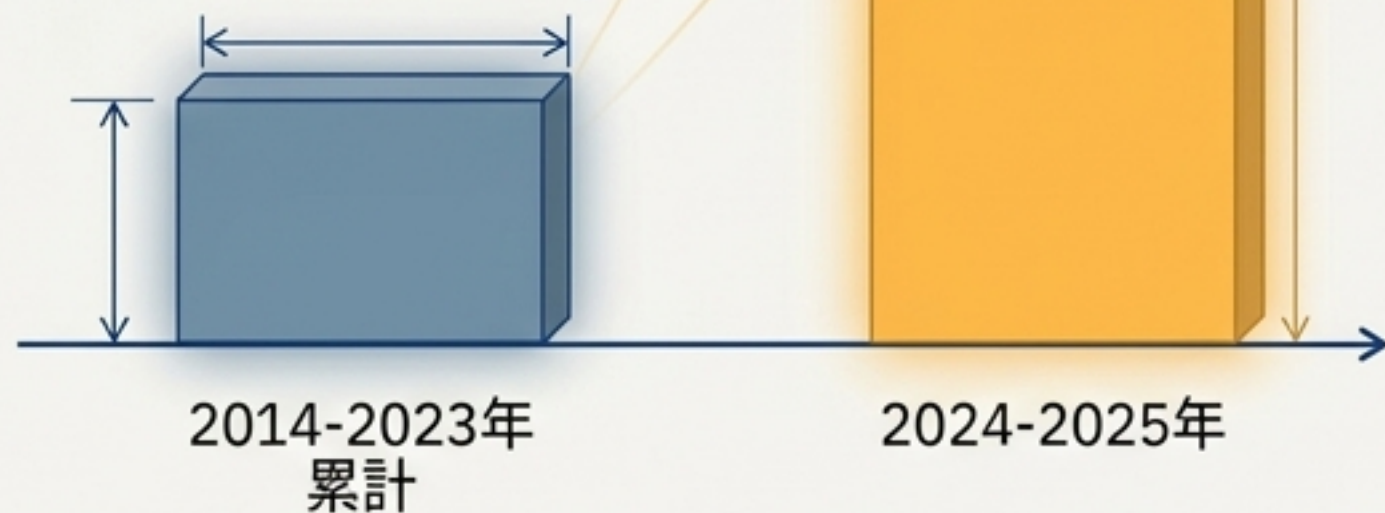
ソフトバンクグループ 生成AI特許・世界首位の深層

1万件の大量出願が示す「AI実装インフラ企業」への
自己変革と知財戦略の解剖

[STRATEGIC TEARDOWN]
[DATE: 2026.07.15]
[TARGET: SBG]

THE SHOCK:わずか2年での絶対的覇権

56,000+件:
2024-2025年のWIPO
生成AI特許公開数（過
去10年累計を突破）



Rank 1

Rank 2

Rank 3

Rank 4

世界第1位: ソフトバンクグループが
単一企業として首位獲得

SoftBank Group

Tencent

Baidu

Alphabet

2年間の生成AI特許の爆発的増加において、日本の巨大投資会社が突如として米中ビッグテックを抜き去り、グローバル単独首位に躍り出るといふ異例の事態が発生した。

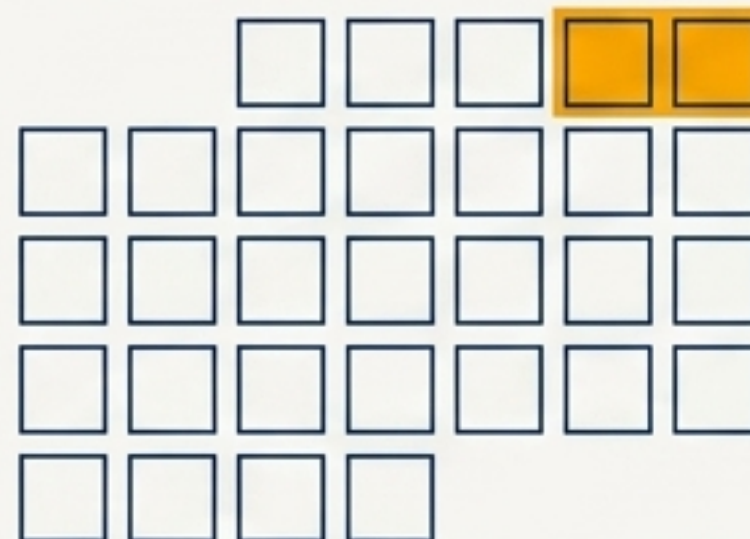
THE ANOMALY: オーガニックな成長ではない、意図的な「事件」



JPO実態推計: 約10,000件
WIPOベース: 約3,000件

(2023年秋以降の短期集中出願)

April 2025

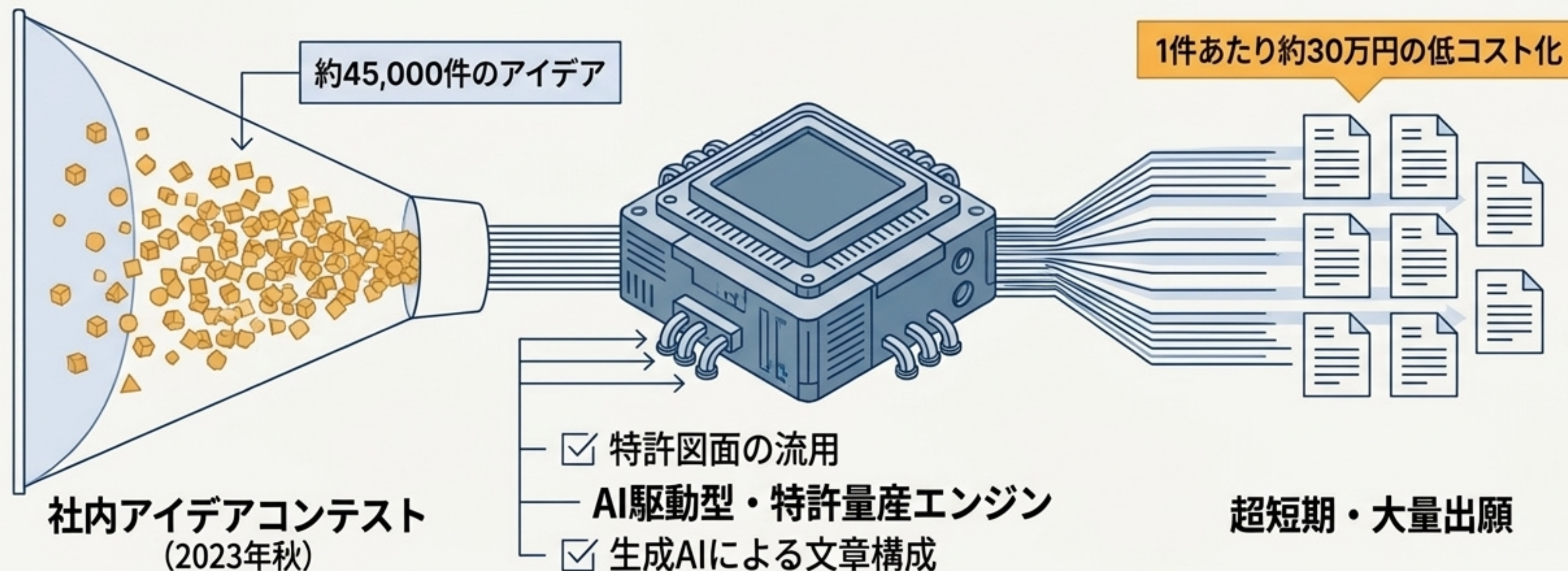


特異点: 2025年4月、
わずか「2日間」で
約3,500件が一挙公開

推定投資額: 総額約30億円規模 (出願費用のみ)

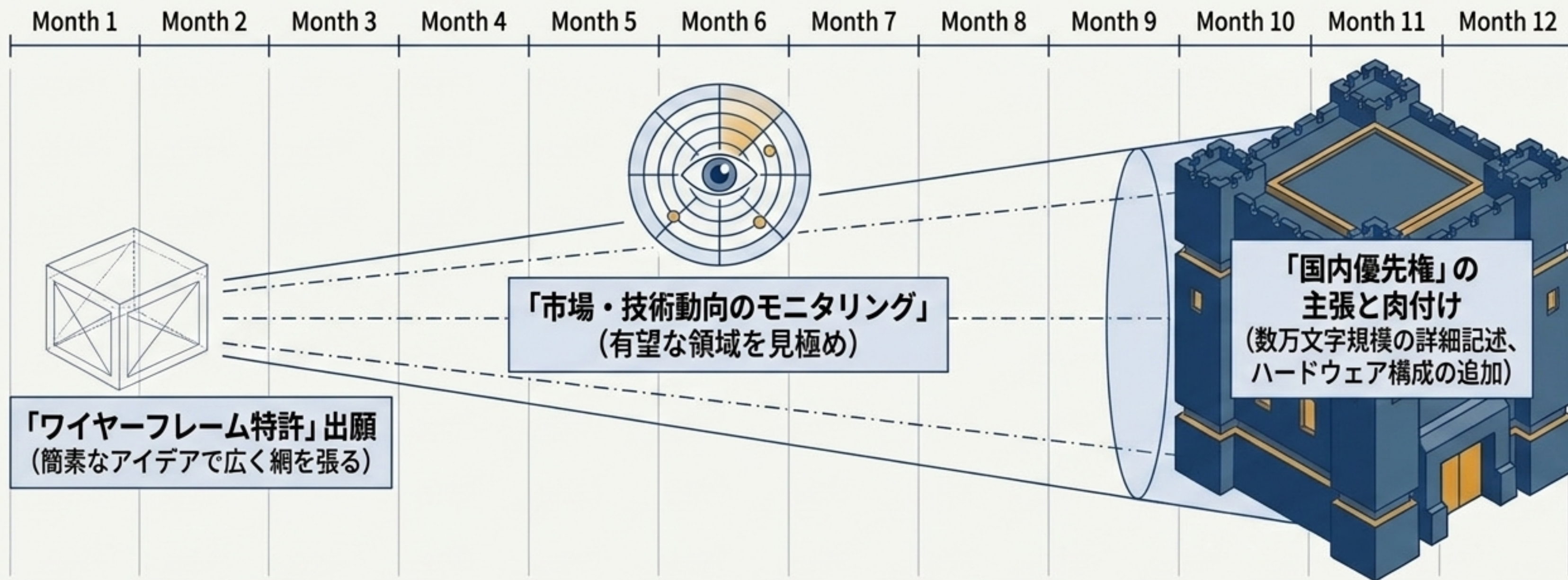
これは通常の研究開発の自然な結果ではない。数千件単位の特許を数日で公開させる、極めて統制されたトップダウン型の企業知財イベントである。

PLAYBOOK 1: 「データ処理」としての特許量産ファクトリー



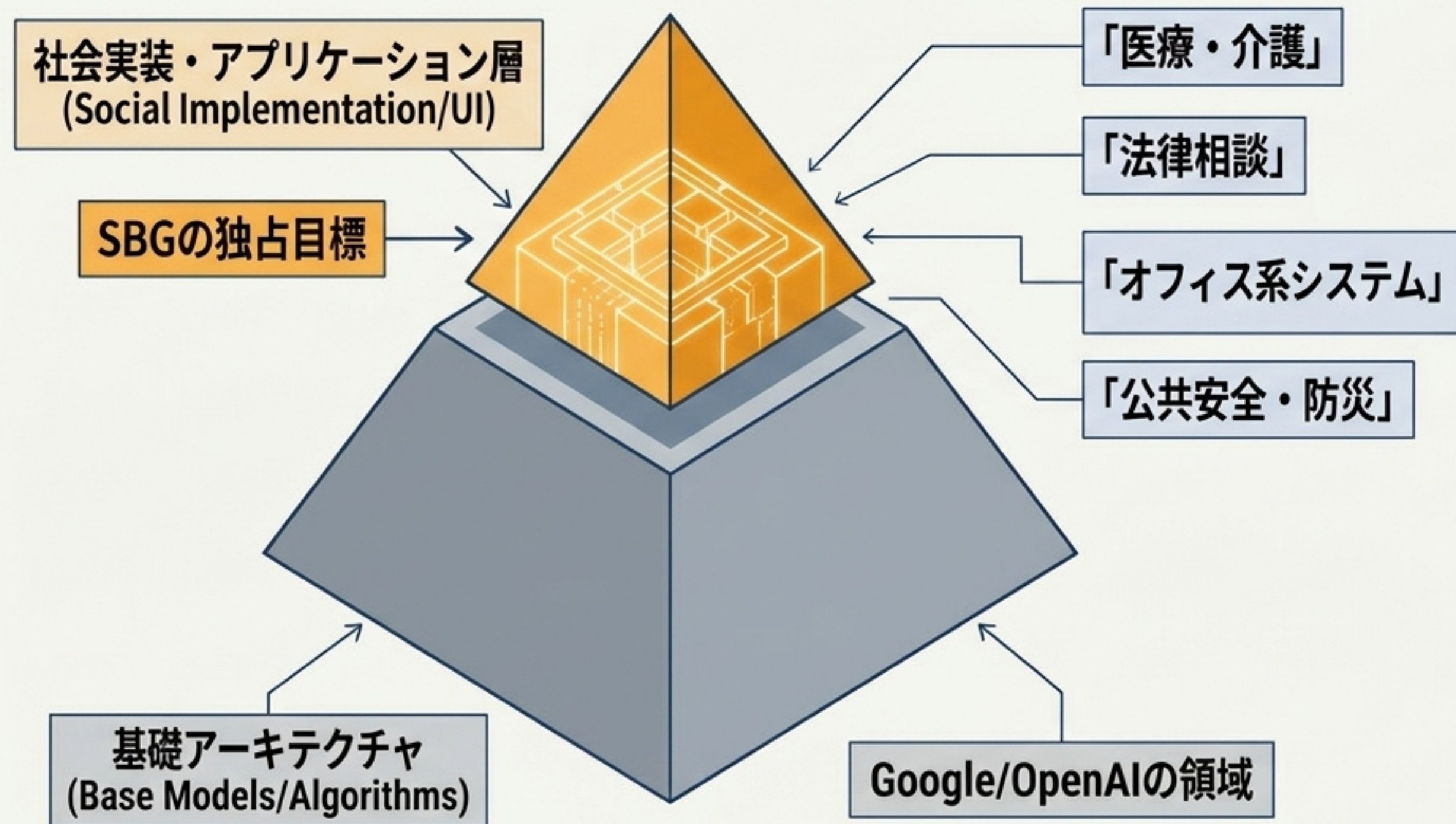
SBGは特許生成のプロセス自体をAI化。4.5万件の生のアイデアを、テンプレートとAI文章構成によって高速でフォーマット化し、「量産」を実現した。

PLAYBOOK 2: スタートアップ型権利化戦略（国内優先権のハック）



初期は最小限のコストで「場所取り」を行い、市場価値が証明されたアイデアに対してのみ、1年以内に情報処理的な詳細を大幅に書き加える。リスクを極小化し、後から「モート(防壁)」を構築する極めて合理的な戦術。

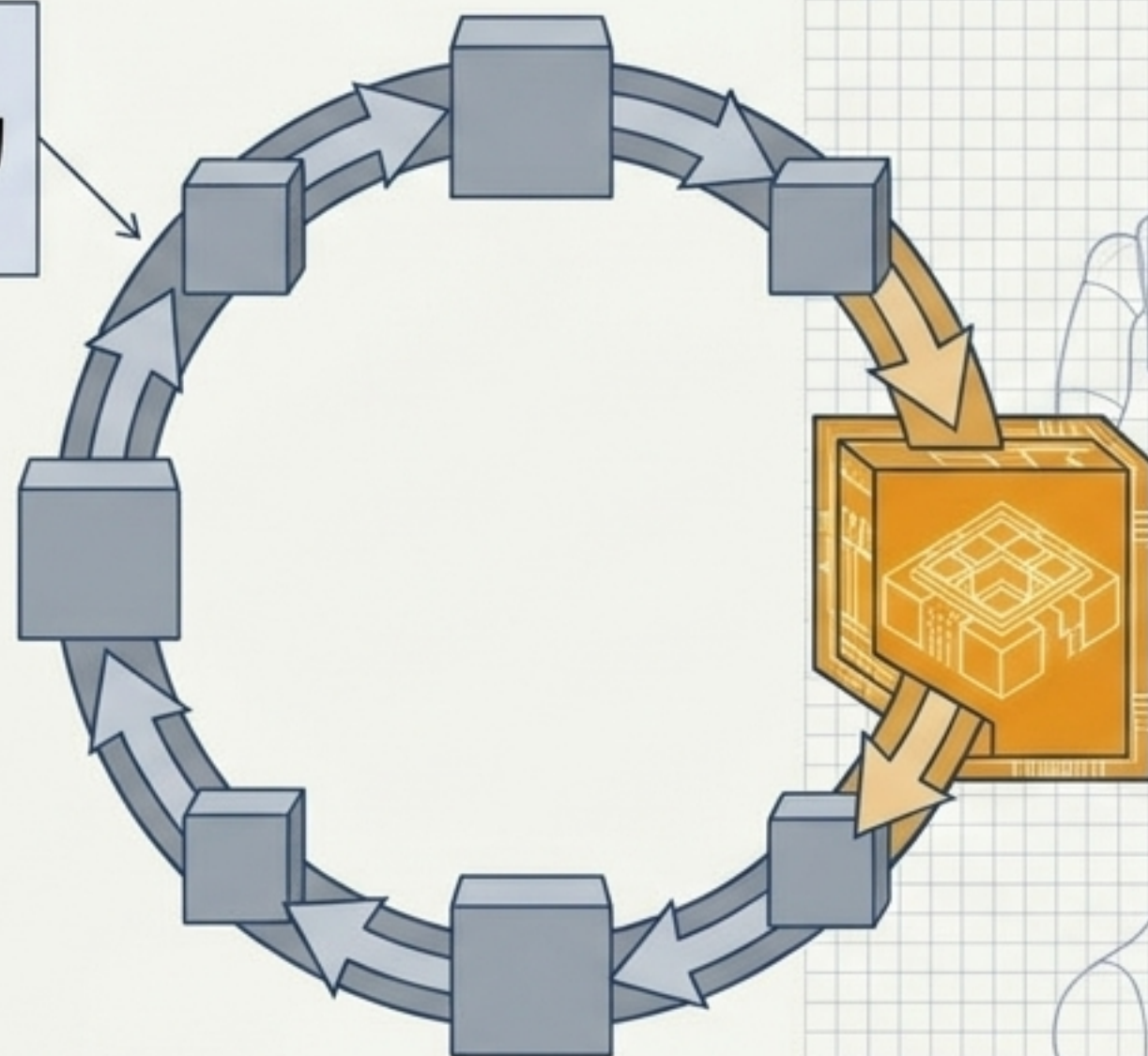
TARGET LAYER: 基礎モデルの戦いを避け、「社会実装」を独占する



SBGの特許群はAIのアルゴリズムそのものではなく、AIをどう**実社会のソリューション**に**組み込む**かに極端に偏重している。彼らは「エンジンの設計図」ではなく、「**車の運転席**」の特許押さえに行っている。

THE DIFFERENTIATOR: ペッパーの遺産 「感情駆動型AI」

US Big Tech:
純粋な論理と処理能力
の追求



SoftBank:
ユーザーの感情を読み取り、
プロンプトや動作制御に「共感」
を組み込む人間化アプローチ

共感エミュレート
(感情制御) モジュール

ロボット開発で培った「感情制御」の知見を生成AIのプロンプトエンジニアリングに転用。
これが、米国勢の純粋なテックアプローチとは明確に異なる、SBG独自の特許防壁となっている。

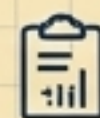
GLOBAL MATRIX: 生成AI特許の新たなプレイヤー類型



Broad Tech Ecosystems

Tencent (#2, 2,074件),
Baidu (#4, 1,234件) (China)

Focus: デジタルエコシステム全体の底上げ



The Implementation Monopolist

SoftBank (Japan) - #1, 2,985件

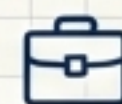
Focus: AIインフラ・実装特化



Foundational Pioneers

Alphabet (#8, 1,083件),
Microsoft (#10, 865件) (US)

Focus: 基盤モデル (Gemini, OpenAI連携)



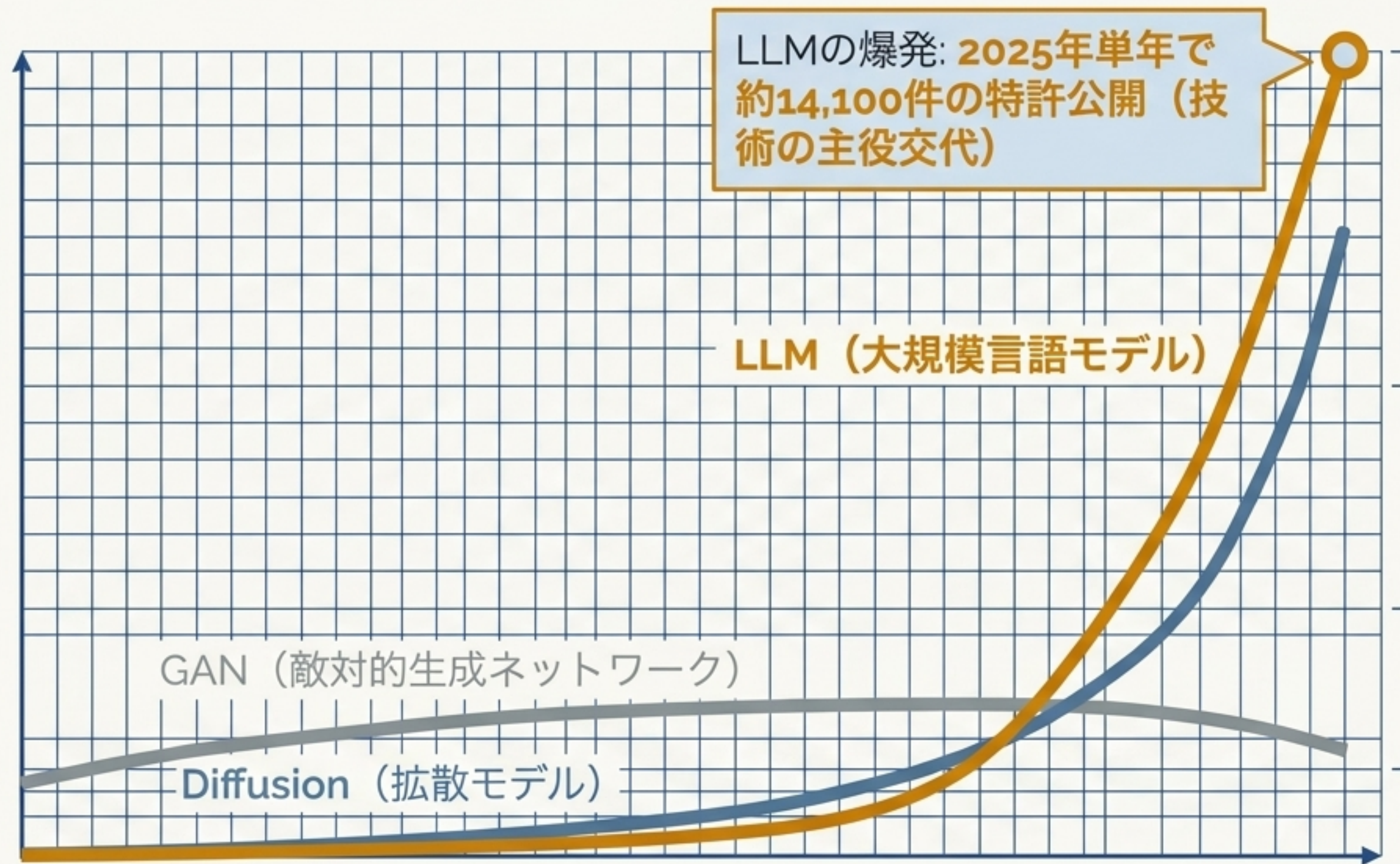
Industrial Adopters

Ping An (#3, 1,564件),
State Grid (#5, 1,144件) (China)

Focus: 金融、インフラ・エネルギー網の最適化

リーダーボードはもはやシリコンバレーの独壇場ではない。中国の巨大テックと非テック・インフラ企業が上位を占める中、SBGが「実装の独占者」としてトップに君臨する構図へと激変している。

THE PARADIGM SHIFT: なぜ「今」なのか？



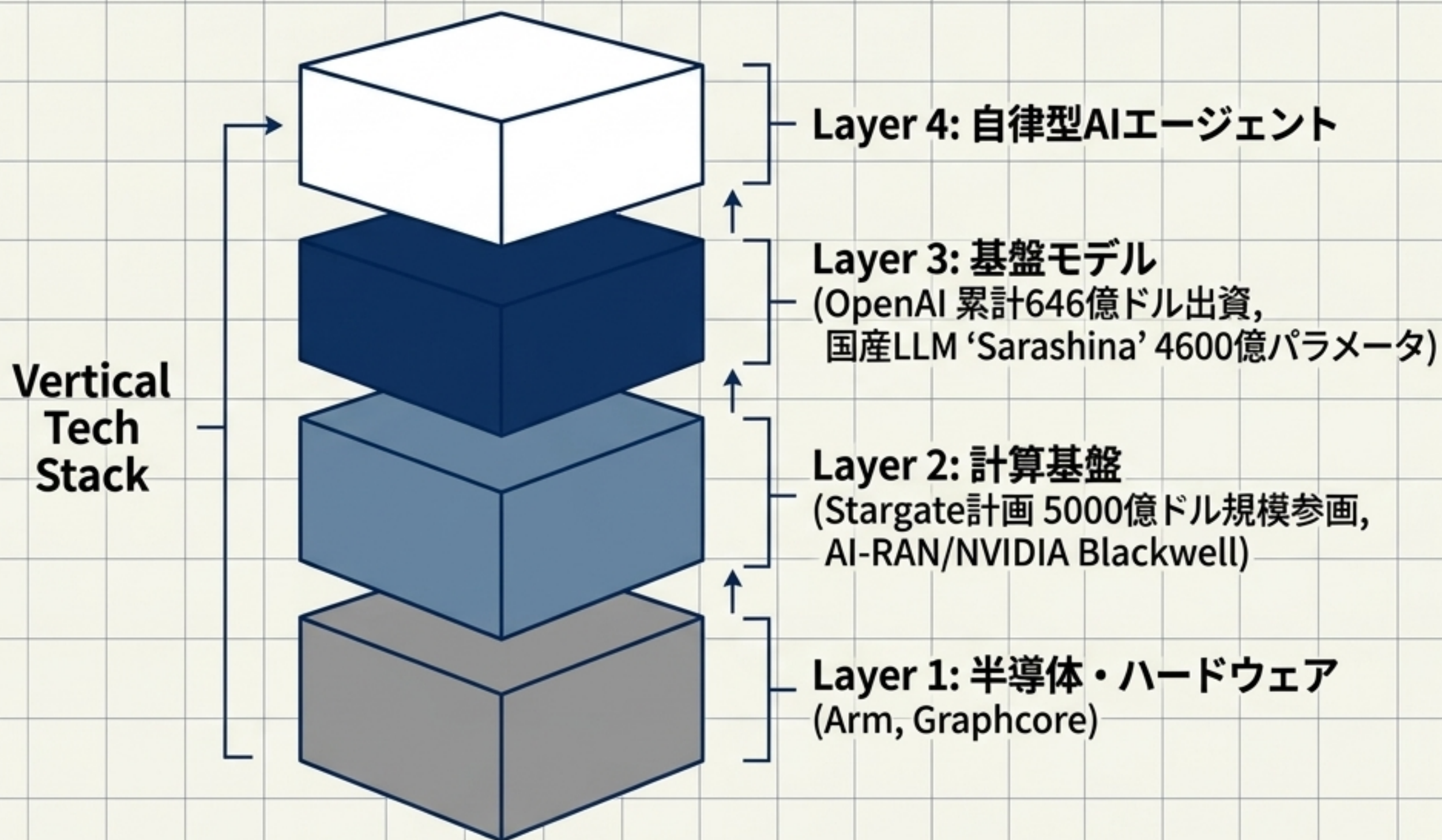
特許ランドスケープは技術的現実を完全に反映している。言語と画像生成モデルがAI研究開発空間を完全に飲み込んだこの「特異点」こそが、SBGが1万件の網を張る決断を下したトリガーである。

「人工超知能 (ASI) ラット プロバイダー世界ー」

孫正義 CEO (CEO Message—SoftBank Group Report 2025)

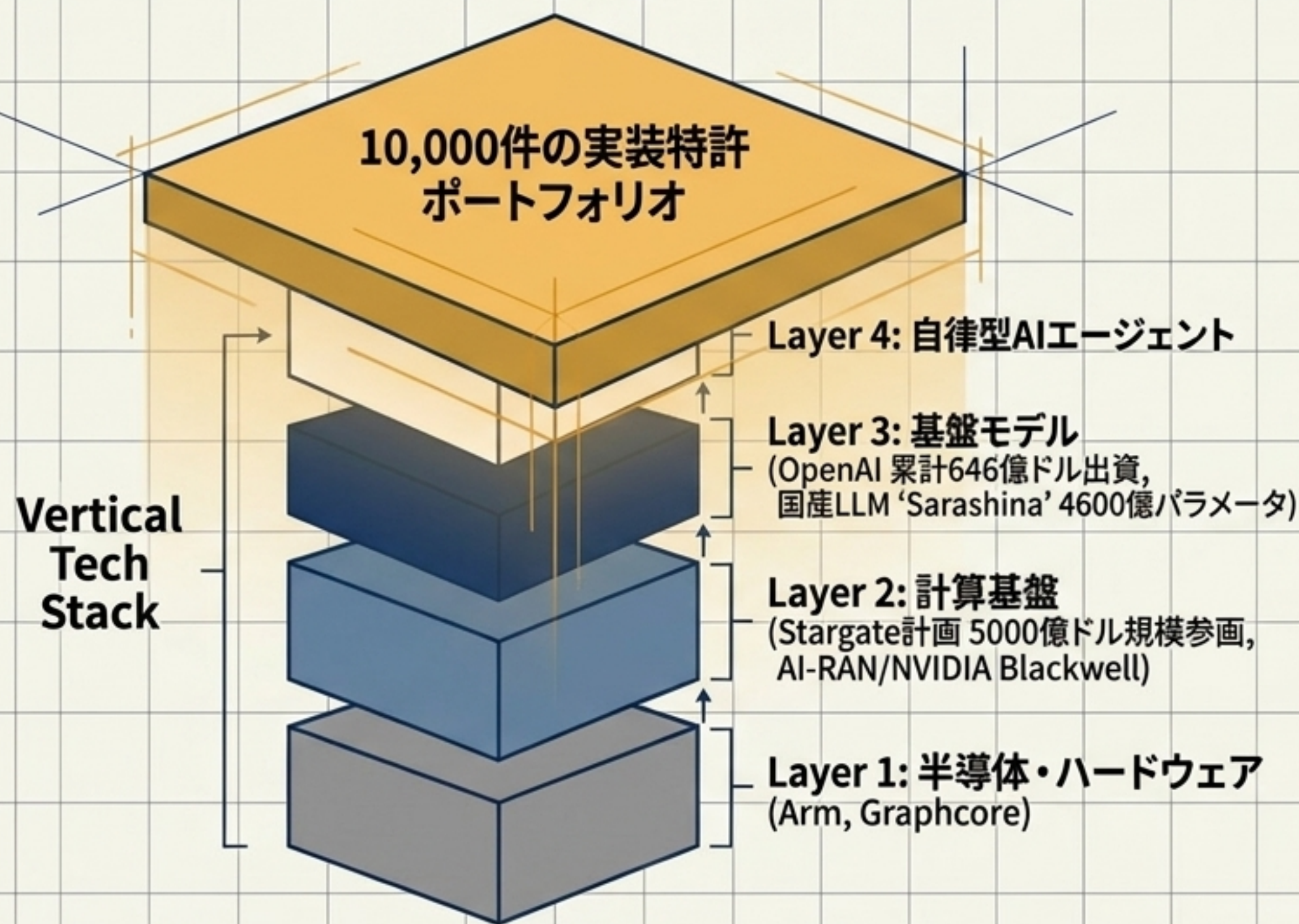
1万件の特許群は、単なる知財ゲームではない。
来るべきASI (Artificial Super Intelligence) 時代
において、プラットフォームの主導権を握るた
めの「法的な先陣」である。

THE ENGINE ROOM: 垂直統合される「ASIインフラストラクチャー」



SBGはシリコンの設計から、超巨大データセンター、世界最高峰の基盤モデルに至るまで、AIのグローバルサプライチェーンを物理的・資本的に構築しつつある。

THE SYNTHESIS: 「インフラ」と「特許」の完璧な挟み撃ち



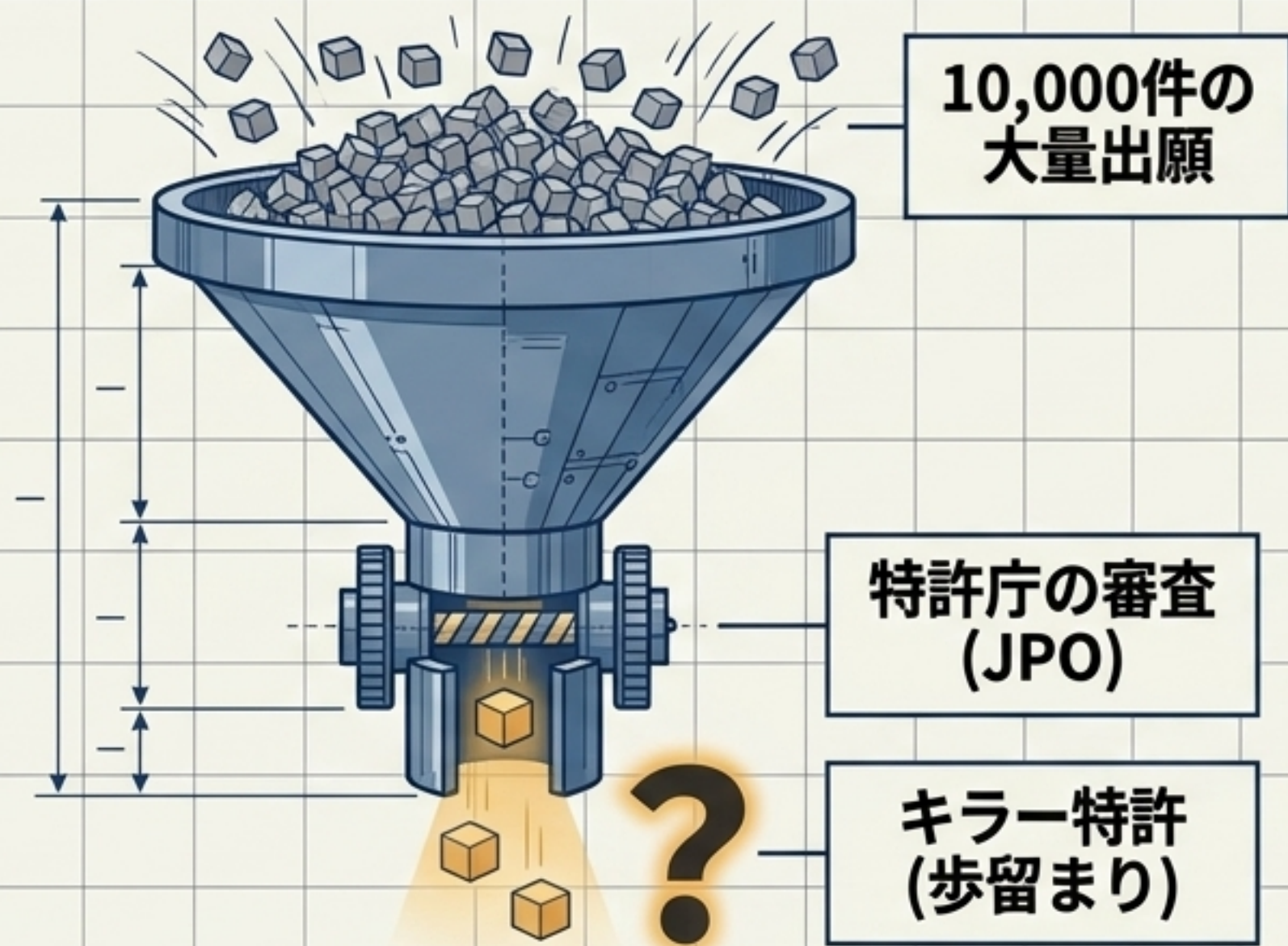
1. Build the Engine:
ArmとOpenAIで世界最高のAI処
理能力を構築。

2. Own the Steering Wheel:
社会実装レイヤー (UI/用途) を大
量の特許で封鎖。

3. Monetize: 他社がインフラを利用
してサービスを作る際、SBGの「用途特
許」を踏む構造を作り出し、ライセンス
やサービス独占で収益を回収する。

パートナーシップで「インフラ」を構築し、
特許で「ユーザー接点」を独占する。
これがSBGの完全なるマネタイズ・
アーキテクチャである。

REALITY CHECK 1: テンプレート量産特許の 「品質」と歩留まり



AI生成の限界：

テンプレートとAIを駆使した出願が、強力な権利（モート）として機能する「キラー特許」としてどれだけ生き残れるかは未知数。

審査システムの圧迫：

1企業による異常なペースの大量出願は、日本の知財システム全体・審査リソースへの負荷を引き起こしている。

大量出願は市場への「威嚇」としては機能するが、法的な無敵性を保証するものではない。
真の勝負はこれから始まる特許庁との攻防にある。

REALITY CHECK 2: 「属地主義」の罠と技術流出リスク



国内偏重の現状:

現時点での大量出願は日本国内での権利化に特化しており、国際特許出願（PCT）の比率が低いと観測されている。



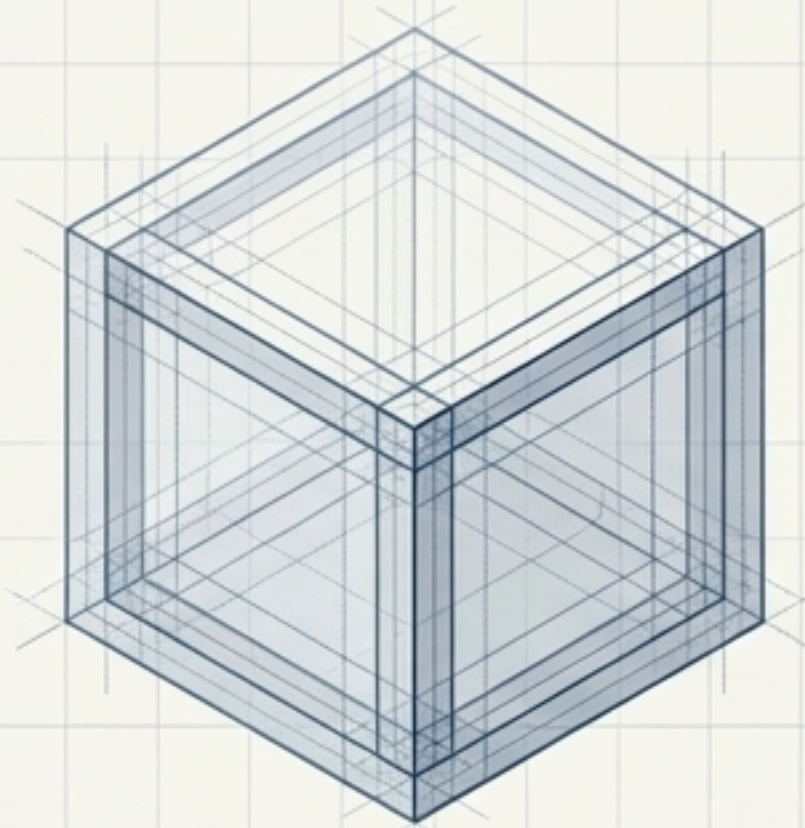
フリーライドの恐怖:

特許は属地主義。海外で権利化されなければ、公開されたAIビジネスアイデアの数々は、海外企業にとって合法的に「コピー可能」な技術流出となる。



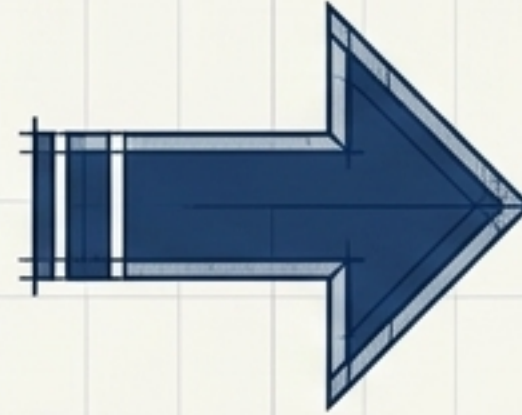
世界最大のAIアイデアを公開しながら、グローバルでの法的防壁（PCT）を怠れば、それは戦略ではなく、世界に向けた「無料のアイデア提供」になり兼ねない。

CONCLUSION: 投資家からの脱却、そして実装者への変革



「投資会社」

(Vision Fund era, passive capital allocator)



「AI実装インフラ企業」

(Active builder, IP fortress)

生成AI特許世界一という事実は、SBGがもはや単なる「小切手を書く投資家」ではなく、ASI時代を自らエンジニアリングし、領土を主張する「インフラストラクチャー企業」へ自己変革したという市場への強烈なシグナルである。

孫正義のビジョンが現実となるか否かは、この1万件の「原石」から、Arm・OpenAIのインフラと結合する少数の黄金の「キラー特許」を抽出し、世界規模で防衛できるかにかかっている。